

平成 28 年 4 月 20 日

日本西洋史学会会員各位

大阪府豊中市待兼山町 1-5  
大阪大学大学院文学研究科西洋史学研究室内  
日本西洋史学会『西洋史学』編集委員会  
代表 藤川隆男

## 2017 年度からの刊行体制の変更と 2016 年度における経過措置について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素、『西洋史学』をご愛読いただき誠にありがとうございます。

さて、これまで 6 年近くにわたり、本『西洋史学』の刊行が半年前後遅れ、会員の皆様および大学図書館等の諸機関の皆様には、ご迷惑とご心配をおかけしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。こうした深刻な事態を抜本的に打開し、将来にわたって日本の西洋史研究を主導する雑誌として、安定した刊行を継続するために、編集委員会ではほぼ一年にわたって解決策を検討してきました。その結果、これまでの刊行体制を大幅に変更せざるをえない、との結論に達しました。

最も重要な変更は、年 4 回刊行から年 2 回刊行に刊行回数を削減する点です。あわせて、2017 年度から刊行する各号の厚さは、現状の 1.5 倍程度にいたします。全体の量を縮小するのは、若手の研究者の投稿数、掲載決定数などを考慮し、今後とも刊行の遅れが出ないようにするのが最大のねらいです。他方で、投稿論文の採否を決める編集幹事会の開催数は、年 4 回から変更せず、しかも不定期な状態から定期開催に切り替えて、投稿論文の採否決定を今まで以上に迅速に行うことで、投稿する会員の皆様に不都合が生じないようにいたします。

この 2017 年度からの抜本的な変更~~に先立って~~、2016 年度は経過措置として、従来と同じ厚さの冊子を年 2 回刊行いたします。現状では、半年の刊行の遅れが生じているために、2016 年度の前半には、2015 年度分の第 259 号と第 260 号が刊行されます。それに続くかたちで、年度後半に 2016 年度分の第 261 号と第 262 号を刊行し、それをもって 2016 年度号の刊行を終了することで、これまでの遅れを解消いたします。

以上のような刊行体制の変更にとともない、年会費を以下の通り改定することといたしました。

## 記

1. 2016年度の年会費は、経過措置として現行（5,120円）の半額の**2,560円**とする。
2. 学生会員（院生割引制度適用者）は2016年度の年会費を現行（3,320円）の半額の**1,660円**とする。なお2016年度より、学生会員の対象者は、学籍を有する大学院生（ないしは学部生）とし、**割引の申し込みには学籍の証明を必要とする**。
3. 2017年度より、**年会費を4,400円**とする。
4. 学生会員（院生割引制度適用者）は**同年会費を3,300円**とする。

確認のために再度述べますと、2017年度からは、年2回（6月と12月）現在の冊子の1.5倍程度の冊子を刊行し、会費は一般会員4,400円、学生会員3,300円といたします。2016年度号の刊行回数削減と年会費の改定は、この変更にもなう経過措置となります。

なお、刊行年度と実際の刊行時期のずれのために、冊子の刊行に合わせて費用をお支払いいただいていた大学図書館等の諸機関の皆様には、今後2016年度内に、実際には2015年度分の2冊と2016年度分の2冊、あわせて4冊が刊行されますので、**2015年度の年会費と同額の5,120円**のご用意とお支払いをお願いいたします。

刊行体制の変更にあたり、会員の皆様にはご不便をおかけしますことをお詫び申し上げます。つきましては、編集委員会も充実した誌面づくりと会員数の増加のために、いっそう努力を積み重ねる所存ですので、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具